

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3570200620		
法人名	社会福祉法人むべの里		
事業所名	グループホーム厚南		
所在地	宇部市黒石北4丁目5番39番		
自己評価作成日	令和1年10月30日	評価結果市町受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和1年11月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとり担当があり、個別対応に努め、出来る事を見守り、出来る事を少しでも長く継続できるように支援している。看取りの経験もし、ご家族の協力を得ながら、最後まで馴染みの環境の中で過ごしていただくように努めている。職員の意識向上などに向けた勉強会を開催している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「ユニットケア実施状況アンケート」を実施され、月1回のグループホーム会議でその時々々の課題を理念につなげておられ、具体的なケアに取り組むため、全職員で話し合いをしておられます。今年は、接遇と環境整備に重点を置かれ、利用者へ丁寧な声かけを行って、入浴中に昔話をし、ゆっくりと職員との会話を楽しめるよう支援されたり、一人ひとりがくつろげるコーナーとなるようソファの配置の配慮されて、穏やかな雰囲気をつくっておられます。利用者の思いや希望を取り入れたケアをするため、利用者自身が参加する「利用者会議」を開催され、余暇活動週間予定表を作成されて、おやつづくりや外出など、楽しみづくりに反映させておられます。運営推進会議や敬老会、大掃除などの行事に多くのご家族の参加を得ておられ、家族との信頼関係をもとに、利用者が個々に応じたペースで、その人らしい暮らしを楽しめるよう、管理者や職員は支援に取り組んでおられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族にも伝え、全職員と共に考え、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。全職員にアンケートを行い、グループホーム会議で理念を具体的なケアにつなげるための話し合いをして、利用者への声かけを意識的に行うなど、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、月1回の高校生を招いての園芸教室参加。併設のデイサービスでの敬老会や催しに参加して地域とのつながりを続けられるよう努めている。	自治会に加入し、総会に法人職員が参加している。拠点施設の餅つき大会やサロン、デイサービスの行事に参加し、施設の利用者や職員、地域の人と交流している。事業所にボランティア(敬老会、高校生の園芸教室、お茶会、養護学校生徒の清掃作業)の来訪がある。地域の人から野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力中、認知サポート養成講座時の見学場所提供。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	研修を行いたいと課題を掲げ、月1回は施設全体での働き方の指針。待遇指針の研修に参加している。	自己評価は、管理者が日常業務の中で職員に意見を聞き、まとめている。外部評価結果は運営推進会議で報告している。その時々課題について管理者がグループホーム会議で指導し、丁寧な声かけの実施など、具体的な改善に取り組んでいるが、全職員が評価の意義を理解し、目標達成計画を活かしているとはいえない。	・全職員による評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族にも報告し、意見も取り入れてサービスの向上に努めている。	会議は年6回開催し、利用者の状況や近況報告、事業計画、活動報告、研修報告、事故・ヒヤリハット報告、外部評価結果報告などを行っている。会議に併せて昼食会を行っており、家族の参加は多いが、地域からの参加者は少ない。身体拘束廃止委員会を同時に開催したり、会議で、ユニットケア実施状況アンケート結果に基づき、内部研修の報告をして、評価につなぐなど工夫して、サービス向上に努めている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議時に話し合っているほか、直接出向いて相談したりしている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出向いた時などに相談し、指導や助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、情報交換を行い、何かあったときには相談するようにして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関は施錠、併設施設との行き来は可能である。身体拘束に何が当たるのかを職員全員で理解し、抑制や拘束をしない介護に努めている。	年6回運営推進会議に併せて、身体拘束廃止委員会を開催している。職員は年2回の、法人の合同身体拘束廃止委員会が開催している5グループホーム合同研修や、内部研修(年2回)で学び、身体拘束のないケアに取り組んでいる。施設の出入り口は施錠しているが、併設施設とのつなぎ廊下は開放しており、利用者は自由に出入りし、利用者が外出したい時には職員と一緒に散歩に出かけて気分転換をしている。スピーチロックについて法人の接遇委員会で検討し、グループホーム会議で話し合っている。気になるところがあれば毎日のミーティングで話し合ったり、連絡帳で情報を共有して、注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は接遇指針の研修中でも必ず学び、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は今後していく予定。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と入居者様のご家族の不安や疑問点は、その都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を反映するように努めている。	契約時に、家族に重要事項説明書を活用して、相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きなどについて説明している。運営推進会議や食事会、行事などの参加時、面会時、電話などで意見や要望を聞いている。毎月の事業所だよりで利用者の日常の様子を伝えて、意見を言いやすいように工夫している。グループホームユニットケア実施状況アンケートを実施して意見や要望を聞き「ケース記録」に記録して、脱衣室のバケツの設置数や場所の変更、歩行の機会の確保など、意見を支援に反映している。利用者会議を開催し、利用者の意見を取り入れたおやつづくりや外出など、余暇活動週間予定表を作成して利用者の楽しみづくりの支援をしているなど、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談以外にも、職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者は月1回のグループホーム会議や毎日のミーティング、日常業務の中で、職員の意見や提案を聞いている。管理者は必要に応じて個人面談を行うこととしている。職員の意見から脱衣所の手すりを設置する、次亜水の設置場所を増やす、利用者の下膳時は自分の食器だけを下げることにするなど、職員の意見や提案をケアや運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員面談を行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員に情報を伝え、希望に応じて受講の機会を提供している。法人内の研修は参加している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供しているが、今年は参加者はいない。法人研修は、自立支援介護発表会に3名出席し、法人5グループホーム合同で年6回、身体拘束、利用者主体の視点、介護職員としての心構え、接遇などについて実施し、毎回3名程度参加している。内部研修は、年間計画を立て、職員が講師となって、虐待防止、緊急対応、感染予防、環境づくり、理念、身体拘束、熱中症、個人情報保護などについて実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の研修会などに参加し、職員の情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	中々ご家族の本音を聞くことは難しいが、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事を見つけて職員と共に過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が職員が介護をゆだねているというところもある。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚及びご友人の面会で来園された際、居室にご案内し談笑して頂いている。また外出や外泊などの機会をもたれるように働きかけている。	家族の面会や親せきの人、知人、パン教室の仲間などの来訪がある他、電話などでの交流を支援している。家族の協力を得て、馴染みの店での買い物や食事、墓参り、一時帰宅、外泊、生家付近のドライブなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々や利用者様同士の関係づくりに心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートや、日常の関わりのなかでの入居者様の行動や会話の内容を介護記録に記録し、その中から本人の思いや意向把握して、ご本人主体に努めている。	入居時のフェイスシートの基本情報を活用している他、日々の関わりの中での利用者の訴えや行動、言葉や表情をケース記録に記載し、業務日誌や連絡帳に記載して、グループホーム会議、カンファレンスで話し合っ、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。9月から利用者会議を開催し、利用者の希望や意向を聞いている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞き、少しずつ努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症状が進みつつある方もおられるが、出来る事を見つける努力をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見はなかなか聞けないが、随時職員同士で話し合っている。カンファレンスやアセスメントを行い介護計画に反映させている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって月1回のグループホーム会議でカンファレンスを行い、利用者の思いや意向、主治医など関係者の意見を参考にして全職員で話し合っ、介護計画を作成している。利用者を担当している職員が記入した実施状況を基に、3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。利用者の状態や、本人や家族の意向など変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。ケース記録を介護計画の実施状況が把握できるように様式を変更しているなど、記録の工夫をしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時職員同士話し合い、柔軟な支援に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所への挨拶、声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居以前からのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医として受診の支援をしている。希望に応じて皮膚科や歯科の訪問診療も受けることができる。</p>	<p>本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関をかかりつけとする利用者には、月2回の訪問診療がある。3ヶ月に1回皮膚科の訪問診療がある他、希望に応じて歯科医が月1回、往診している。2週間に1回、看護師が来訪し、バイタルチェックなど健康観察をしている。他科などの個別受診は、初回は職員が家族に同行して情報を提供し、その後は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時は医療機関にバイタル等の情報提供文書を作成し、家族に手渡ししている。受診結果は生活日誌に記録して職員間で共有し、必要に応じて家族に電話で報告している。緊急時には訪問看護師や協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>隔週で訪問して頂き、連携を取っている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は地域連携室の相談員の方と密に連絡を密に行い、病状の把握に努め退院に向けて関係づくりに努めている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」をもとに、事業所で出来る対応についての説明をしている。</p>	<p>契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、医療機関や他施設への移設を含めて、かかりつけ医等関係者が話し合っ方針を決め、関係者や全職員が共有して支援に取り組んでいる。希望があれば看取りの支援にも取り組むこととしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	発生時には事故報告書・ヒヤリハット報告書を記入している。全職員に回覧を行い、内容を共有している。	事例が生じた場合は、事故報告書やヒヤリハット報告書に発生状況等を記録して、当日のミーティングで原因や予防策、改善策等を検討し、回覧して情報を共有している。職員は内部研修で年3回、緊急時の対応やAED使用法、リスク管理、事故防止の研修を行い、年1回、緊急時対応マニュアルの再確認を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を十分に身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防署の協力を得て、併設との合同総合訓練に参加している。	年3回、拠点施設が合同で昼夜の火災、風水害、地震を想定した通報、避難、消火訓練、避難経路の確認を、利用者の参加を得て実施している。内1回は消防署の協力を得ている。非常用食料などを備蓄して、拠点施設内の協力体制はあるが、訓練に地域からの参加はなく、地域との協力体制を築いているとは言えない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	働き方の指針や接遇指針の勉強会を実施し、入居者様の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉掛けと支援を行っている。	職員は、「働き方の指針及び接遇の指針」を月1回のグループホーム会議で唱和し、内部研修で倫理規定やプライバシー保護などについて学び、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。気になる場所があれば、管理者がその場で注意したり、個人面談で指導したりしている。個人情報への取扱いに留意し、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情やペースに合わせた対応で接している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、ご利用者様の思いに寄り添える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様の希望を伺いながらも、季節を意識しての装いを支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、法人からの配食で盛り付けやお茶くみ、下膳や食器拭きなどを会話を楽しみながら行っている。	食事は昼食、夕食の副菜は法人の配食を利用し、炊飯と朝食の汁物を事業所でつくっている。雑炊など、利用者の状態に合わせた形状で提供している。利用者は盛付け、台拭き、お茶くみ、汁物をよそう、下膳、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者は好みの食器を使い、職員と同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。季節の行事食(おせち、クリスマス、餅つきなど)、誕生日(ケーキ飾り、プリンなど)、月1回のおやつづくり(たこ焼き、どら焼き、お好み焼き、ふかし芋など)、季節の果物を買って行って皆で食べる、テイクアウトの丼もの、ボランティアのお茶会、運営推進会議での食事会、家族の協力を得ての外出など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、利用者様一人ひとりの状態に応じた必要量に対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様一人ひとりに応じた口腔ケアを施行している。月1回、歯科往診を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄サイクルに合わせ、時間を確認しながら入居者様一人ひとりに声掛けや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をしている。おむつを着用していた利用者が日中リハビリパンツに変更になったり、薬の調整をして自然排便に導き、便失禁が減少してきたり、車いすを補助具代わりに活用して立位が取れるよう介助するなどして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	14時から毎日入浴を行っている。入居者様の状況や状態によりシャワー浴や清拭などの対応を行っている。	入浴は毎日、10時から12時までの間可能で、2日に1回ゆっくりと入浴できるよう支援している。好みの順番や湯加減に配慮し、利用者は入浴中に歌を歌ったり、昔話をして職員との会話を楽しんでいる。入浴したくない人には無理強いせず、職員を交代したり、時間を変更する、言葉かけを工夫するなどして入浴できるよう支援している。利用者の状態に応じて、清拭や足浴、シャワー浴などの支援をしている。入浴後は好みに応じた化粧水や保湿クリーム、ボディクリームを自分で塗れるようにしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の睡眠パターンを大切にしている。体調に応じて日中は昼寝や休息が出来るように心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬の目的と副作用を把握し、症状の変化に対応出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵を楽しまれたり、DVDの歌を一緒に歌われたり、パズルが好きな方は完成に夢中になられるなど、一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。	テレビやDVDの視聴、雑誌や新聞、広告を読む、音楽を聴く、歌を歌う、ぬり絵の作成と展示、朗読、新聞紙や広告紙の袋づくり、ラジオ体操、にぎにぎ体操、DVD体操、足あげ訓練、カレンダーの日めくり、カーテンの開閉、洗濯物を干す、洗濯物のしわ伸ばし、洗濯物たたみ、布団カバーやシーツの交換、箒で履く、お茶のバック詰め、食事の準備や片付け、食事の挨拶、おやつづくり、花を生ける、プランターの水やり、苗植え、収穫、敬老会、忘年会、大掃除、誕生会、運営推進会議への参加、園内散歩、ボランティアのお茶会など、一人ひとりの力を活かして楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設外の散歩や外食などで外出の支援を行っている。ご家族の協力を得ての受診、外出、自宅に帰られ、友人や親せきの方々に合われるなどの支援を行っている。	初詣、季節の花見(紅葉など)、ドライブ(焼野海岸、連光寺)、大型スーパーマーケットでの昼外食、敷地内の散歩、家族の協力を得ての外出や買い物、一時帰宅、外泊、墓参りなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、電話の取り次ぎや、年賀状を送るなどの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度、換気に配慮している。利用者様の作品を掲示し、いつでもご利用者様やご家族様をご覧になられるように工夫している。	玄関を入ると、カボチャや菊などの季節の花が出迎えてくれる。中央にリビング、両側に居室があり、壁面には丁寧に描かれた利用者のぬり絵作品や日めくりカレンダー、リースなどを飾っている。リビングは大きな窓から陽ざしが差し込み、開放感がある。テーブルや椅子などの他、ソファは利用者の希望により、一人ひとりがくつろげるコーナーとなるように配慮して設置している。対面式の台所からは食事の支度や片付けなどの音、会話する声などが聞こえ、穏やかな空間をつくっている。明るさ、温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望を伺いながら、工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様の写真や愛用品を置いていただき居心地良く過ごしていただけるように配慮している。	箆笥、衣装ケース、洋服かけ、テレビ、机、いす、日用品などを持ち込み、家族や本人の写真やカレンダー、ぬり絵、折り鶴などの手づくり作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりに応じ安全かつ自立に寄り添える環境作りに努めている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム厚南

作成日: 令和 1 年 11 月 28 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議の参加メンバーに地域の方が少なく、本来の意義が十分に果たせていない。	地域住民である自治会長や民生委員等にも、運営推進会議に参加して頂き、地域との関わりを強化する。	施設内に入出りのある自治会長等に、運営推進会議への参加を呼びかける。	1年
2	4	外部評価の意義の理解と活用について、全職員の理解に至っていない。	全職員が評価の意義の理解と活用が出来るよう事業所全体で取り組んでいく。	自己評価は職員一人ひとりが行い、その後、管理者が総合的に評価を行う。	1年
3	35	事故の初期対応や応急手当について、職員によって知識・技術の習得状況に差があり全体の実践力として課題がある。	事故の初期対応や応急手当の訓練を継続し、全ての職員が実践力を身に付けられるようになる。	事業所内会議等を活用し、事故の初期対応と応急手当について勉強会や訓練を継続的に実施する。	1年
4	36	災害対策について、地域との協力体制が築けていない。	災害時の協力体制について、地域住民の協力が得られるよう体制を整備する。	施設内の避難訓練に地域住民の参加を呼び掛ける。 緊急連絡網に自治会関係者の連絡先を入れさせて頂けるよう協力を求める。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。